

ちばけん

障害者社会参加推進センターだより

発行・編集 千葉県障害者社会参加推進センター

第 32 号

〒260-0026 千葉市中央区千葉港 4-5 千葉県身体障害者福祉協会内
TEL 043-245-1571・FAX 043-245-1578 E-mail: bcg03245@nifty.com
<http://chibashinsyoukyou.style.coocan.jp/>



社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会

県内の聴覚障害者を支援しています

ろう者のオリンピック 2025デフリンピック 日本で初開催!!



大会名称：第25回夏季デフリンピック競技大会
日程：2025年11月15日（土）～26日（水）12日間
参加国：70～80か国・地域
参加者数：各国選手団約6,000人（選手約3,000人）
競技：21競技
競技会場：東京都、福島県（サッカー）、静岡県（自転車）

「デフリンピック」とは？

デフ（deaf）は英語で「聞こえない」という意味です。
競技ルールはオリンピックとほぼ同じで、聞こえない・聞こえにくい選手のための視覚的保証がなされた競技環境があることがデフリンピックの特徴です。

ランフラッグなどで視覚的に知らせます

陸上競技や水泳競技のスターターの音はフラッシュランプを使い、聞こえない・聞こえにくい選手にスタートを知らせます。サッカーやラグビーでは審判が笛を吹くとともに、旗または片手をあげることで反則などが起きたことを選手に知らせます。



大会ビジョン

1

デフスポーツの
魅力や価値を伝え
人々や社会とつなぐ

2

世界に、
そして未来に
つながる大会へ

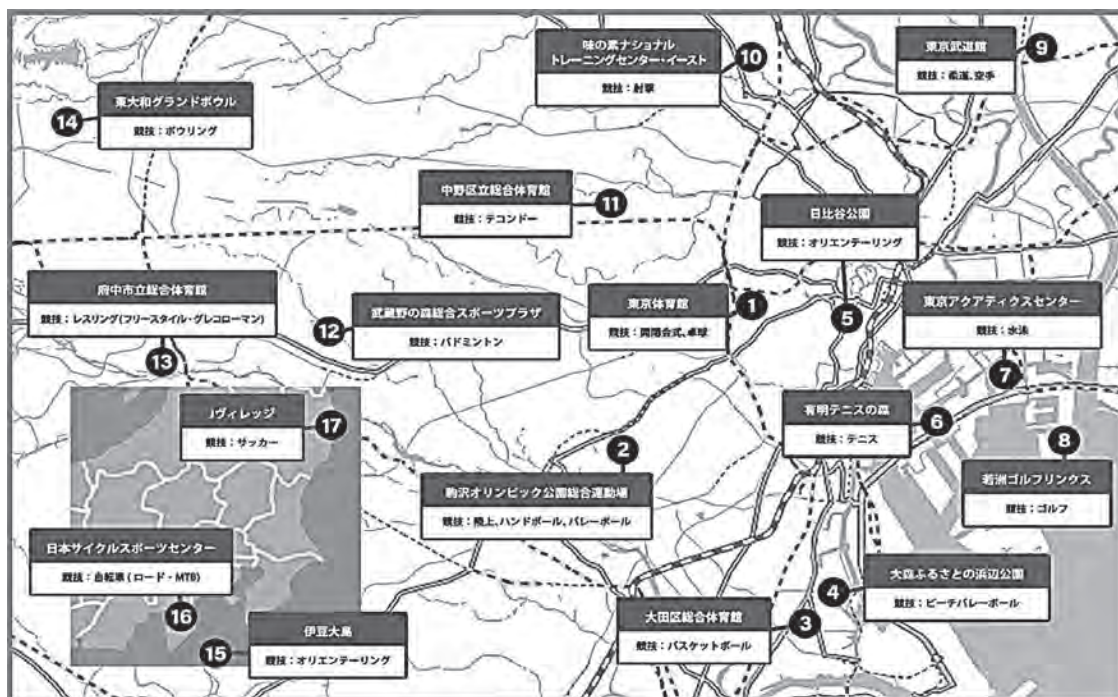
3

“誰もが個性を活かし
力を発揮できる”
共生社会の実現



千葉県聴覚障害者
協会ではデフリンピック・カレ
ンダーを制作しました。

競技と会場map(夏季デフリンピック)



デフリンピックの歴史は？

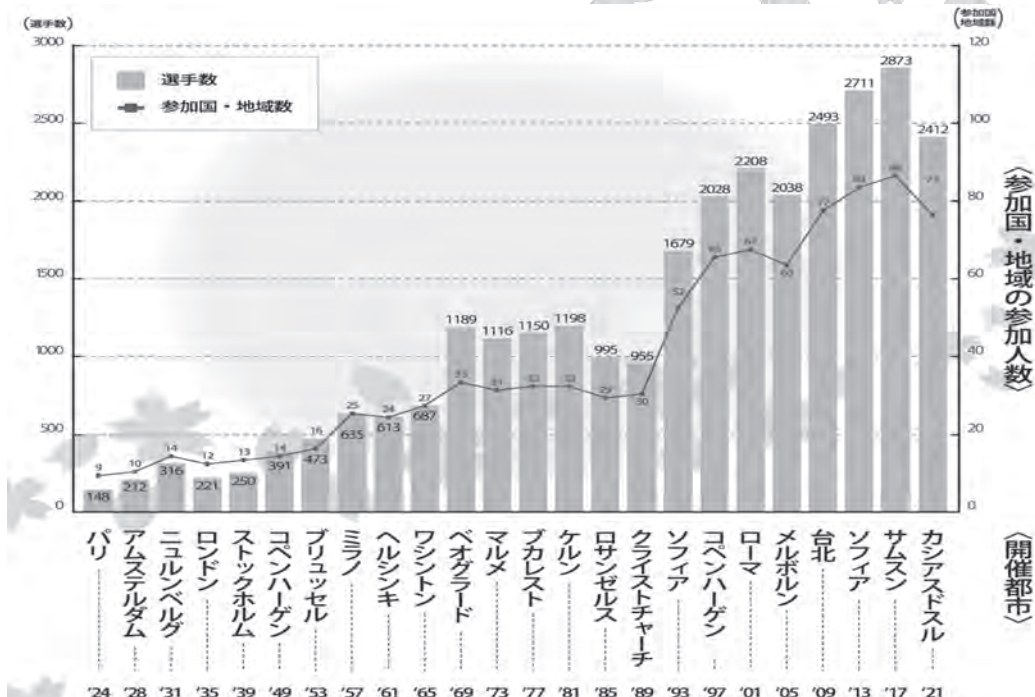
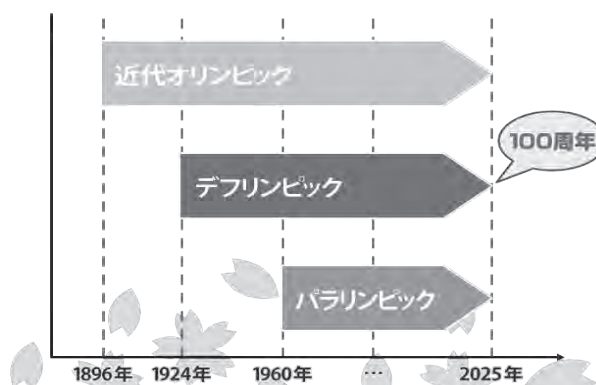
夏季デフリンピック

1924年にはじまり、2025は100周年！

日本は1965年のワシントン大会（第10回）から参加し、この大会から初めてメダルを獲得しました。
（卓球女子シングルス）

冬季デフリンピック

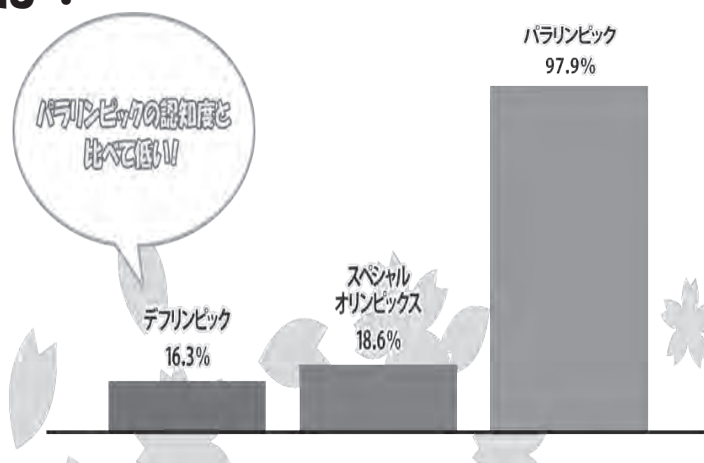
1946年にオーストラリアのゼーフェクトで始まり、日本は1967年のベルヒテスガーデン大会から参加し、初めてのメダル獲得は1999年のダボス大会です。
（女子回転・女子大回転）



■デフリンピックの認知度は？

2021年に日本財団パラリンピックサポートセンターが行った調査結果では、国内のデフリンピックの認知度は16.3%で、本年の1月の時点で30%台に上がりましたが、パラリンピックと比べたらまだ低いです。

デフリンピックをより多くの方々に知ってもらうために、テレビやインターネットや雑誌などでさらに呼びかけていく必要があります。



東京2025デフリンピックの認知度向上および気運醸成

- ・手話言語やろう者の文化の発信・理解促進
- ・多様性と共生社会(SDGs)の推進
- ・日本代表選手や各国選手への応援を全国から届ける

全国キャラバン活動が始まりました。



イベント開催 見る、知る、体験するを通して、デフリンピックやデフスポーツの魅力を全国各地でお届けします。	体験学習 全国のろう学校、小中学校では手話言語やデフスポーツの体験学習を実施します。講師としてデフアスリートが来ることも…	東京2025大会PRカー 大会開催都市の東京都を目指して、北と南から2台のラッピングカーが日本全国を駆け抜けます。
---	--	--

千葉県内の活動は当協会HPにて随時お知らせしますので、ぜひご参加ください。

社会全体でデフアスリートを支援しましょう！

まだまだデフリンピックの認知度は低く、スポンサーが少ないため経済的負担が大きいデフアスリートは、日々のトレーニングや競技において多くの誇りと情熱を持っていますが、その一方で、デフスポーツやデフアスリートへの理解不足で練習場所の確保など課題となることも少なくありません。

この状況を改善するためには、デフリンピックやデフアスリートの取り組みに対する社会的な認知度を向上させるとともに、スポンサーや支援者を増やし、彼らの活動を支える基盤を整える必要があります。

また、デフアスリートが直面する課題や社会的な偏見に対処するためには、教育や啓発活動を通じて聴覚障害に関する理解を広めることが重要です。

そうした努力が、彼らの情熱をより多くの人々に伝え、デフスポーツ全体の発展を促すことになります。

社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会

公益財団法人千葉県肢体不自由児協会



〈初めての体験講座〉

～メイクの基本・ネイルに挑戦 3月2日(日)ふれあいサロン活動にて～

今回、社会人の身だしなみとして、簡単メイクとネイルの仕方の講習会を開きました。当日は、メイクに詳しい、ボランティアさんの指導のもと、男性の参加者もあり、メイクの基本の下地クリームやファンデーションの塗り方を教わりました。特にネイルは気分のリフレッシュにもなり、自分ではどうしてもきれいに塗れないという悩みに答えて、アドバイザーさんが丁寧に好みの色のネイルをぬってくれました。ちょっとしたことで、気分転換がはかれたり、リフレッシュできたと好評でした。ふれあいサロンは毎月第3日曜日13時から15時30分で障がいのある方と学生ボランティア・就労に関する悩みなどを聴くアドバイザーで活動しています。カードゲームやオセロなどで余暇を楽しんだり、個別での生活相談も受け付けています。参加費は無料です。



〈ガールスカウト千葉市協議会親睦バザーに参加〉

5月11日(日)に千葉市中央公園にてバザーが開催されました。当協会は「車いす体験コーナー」でガールスカウト団員や来場者に車いすの操作など実際に体験してもらいました。また、有志の障がい者による手作り品の販売と楽器演奏のライブもおこない自分たちの日頃の練習の成果を披露しました。

当日は、カニタ作業所や千葉YMCAなど福祉団体も出店があり、好天にも恵まれ盛況でした。

こういった機会に障がいについて、関心をもったり理解をしてもらえるよう活動の必要性を感じました。

